

Vol.177

令和6年度3月号

マンサクは、山野に未だ雪が残る頃に花を咲かせます。
北国に春を告げる植物として、人々に親しまれてきました。

第20回 伊豆沼・内沼自然再生協議会が開催されました

伊豆沼・内沼で行われている自然再生活動について、関係団体で話し合う協議会が、2月1日に開催されました。今年度はエコトーン整備は順調に進んだ一方で、水質汚濁は依然として続いており、温暖化の影響か、沼の溶存酸素濃度の低下や魚種数の減少といった、新たな懸念も挙げられました。これらの現状を踏まえ、今後の対策強化の必要性が改めて認識されました。

板柵で造成したエコトーン(1.3ha) R5～R6に造成



伊豆沼・内沼研究集会が開催されました

発表の様子1



発表の様子2



2月1日、第18回伊豆沼・内沼研究集会が開催され、30名を超える方々が参加されました。

今回の研究集会では、音響観測装置を用いた魚類動態を観測するシステムの開発や、衛星画像を用いたカエル類の生息適地モデルの構築、カメラ付きGPSを装着しハクチョウの行動を把握する試みなど、最新技術を用いた研究の発表が行われました。

また、地元の高校生による研究発表もあり、参加した研究者からの質問に対し、一生懸命対応していました。今後も当財団では、若い研究者の斬新な発想での取り組みを支援していきたいと思います。

会場の様子



日本白鳥の会新潟県大会に参加しました

2月8～9日にかけて日本白鳥の会新潟県大会が五泉市総合会館を会場に開催されました。50名ほどの参加があり、基調講演のあと、7題の発表がありました。当財団の嶋田研究室長は現在すすめているスワンププロジェクトについて講演し、大きな関心が寄せられました。また、瓢湖などの視察も行いました。

大雪警報の中での開催となりましたが、大雪の中でのハクチョウの行動も観察できました。



会場の様子



視察に訪れた瓢湖。ここはコハクチョウが多いがコハクチョウは餌付けに来ず、カモ類が集まっていた。

一斉清掃(野火)の実施にご協力ください

伊豆沼・内沼の自然環境復元と湿地保全のため、土地改良区、漁協と共同で伊豆沼第2・第3工区堤防の周辺道路を通行止めにして、野火(枯れ草の焼却)を実施します。

日時: 3月1日(土) 8:30～12:00

悪天候の場合は、3月8日(土)、または3月15日(土)に延期

場所: 伊豆沼第2・第3工区堤防敷

火災と間違えないようお願いします。



伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催します



事前申込にご協力ください。(申込期限は3月14日まで)
当日参加(団体・個人参加)は可能ですが、団体での参加は事前の申込をお願いします。

(チラシは鳥館などで配布しております)

日時: 3月20日(木) 春分の日

雨天の場合は、3月22日(土)に順延(鳥館HPにも掲載します)

開会: 8時30分 (小雨決行)

集合場所: 鳥館、昆虫館、淡水魚館

◎ボランティア活動の参加証明書を発行します。

◎発熱や風邪症状等がある場合、参加をご遠慮ください。

スワンププロジェクトから

オオハクチョウ・ナツキ(6C07)は北海道・十勝で越冬していましたが、2月上旬からの寒波で9日に南下を開始し、海を渡り、青森県おいらせ町に到達しました(図1)。

9日17時には日高山脈を越えていました(写真2)。このときの速度は63km/hで、高度は誤差が大きいものの1300mを越えていました。

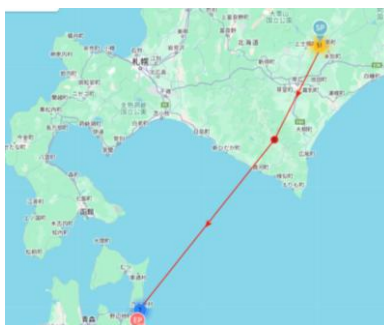


図1: オオハクチョウ・ナツキの南下の経路。



写真2: 2月9日17時のナツキからの画像。日高山脈の上空を飛行中。



ハクチョウの背に乗って

スワンププロジェクト

参加者募集

以下から位置情報、ハクチョウ目線の画像が見られます。

<https://intelin.kgo.com/swaneyes/jp/>



〒989-5504 宮城県栗原市若柳宇上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp

